

## 令和5年度「学校教育自己診断」結果の分析

### 0. アンケート調査の方法および項目数と回収率

令和4年度に引き続き、「さくら連絡網」のアンケート機能を利用した。回収率等は以下の通りである。

	実施日	回答数	R 5	参考：R 4	質問項目
生徒	12月18日～22日	<b>831/949</b>	<b>87.6%</b>	81.4%	23
保護者	12月11日～22日	<b>845/949</b>	<b>85.2%</b>	84.9%	23
教職員	12月04日～18日	<b>59/59</b>	<b>100.0%</b>	76.9%	20

### I. 昨年と同様、三者ともに肯定率が高いもの（質問項目は保護者向けのもので記述）

質問項目	生徒		保護者		教職員	
	R 5	R 4	R 5	R 4	R 5	R 4
お子さんは学校に行くのを楽しみにしている	<b>89.5</b> %	85.0 %	<b>87.6</b> %	84.6 %	—	—
学校は、社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている。	<b>85.6</b> %	84.9 %	<b>93.1</b> %	92.0 %	—	—
学校の人権教育の取り組みに満足している	<b>90.1</b> %	88.7 %	<b>83.4</b> %	87.3 %	<b>83.1</b> %	<u>76.0</u> %
学校の安全教育・防災教育の取り組みに満足している。	<b>86.1</b> %	85.7 %	<b>82.8</b> %	83.6 %	<b>84.7</b> %	88.0 %
学校は保護者やお子さんに必要な進路情報を適切に提供している。	<b>91.3</b> %	87.0 %	<b>89.0</b> %	85.6 %	<b>98.3</b> %	96.0 %
体育祭、文化祭などは生徒の力で自主的に運営されている。	<b>97.0</b> %	96.4 %	<b>96.0</b> %	90.6 %	<b>96.6</b> %	92.0 %
学校はホームページ・ブログや「さくら連絡網」などで情報をよく提供している。	<b>93.1</b> %	94.0 %	<b>97.0</b> %	94.8 %	<b>96.6</b> %	98.0 %

## 【分析】

### (1) 学校生活

- 生徒・保護者ともに満足感があり、かつ学校の教育活動についての期待度は大きい。

### (2) 情報提供

- 「さくら連絡網」等を大いに活用し、進路情報など学校の情報が生徒・保護者に届いている。

### (3) 生徒会活動

- 体育祭・文化祭など、生徒会を中心として生徒が自主的に企画運営するスタイルが満足度の高さにあられている。

## Ⅱ. 昨年と同様、三者（二者）ともに肯定率が低いもの

（質問項目は保護者向けまたは教員向けのもので記述）

質問項目	生徒		保護者		教職員	
	R 5	R 4	R 5	R 4	R 5	R 4
お子さんは「総合的な探究」などの学習活動によって、思考力・情報を収集する力・発表をする力が身につくと言っている。	<b>70.8</b> %	70.0 %	<b>67.9</b> %	70.5 %	<b>47.5</b> %	<u>66.0</u> %
読書の習慣がある。	<b>39.0</b> %	49.4 %	—	—	<b>49.2</b> %	56.0 %
学校の施設・設備全般について、適切に整備されている。	<b>43.6</b> %	62.2 %	<b>55.4</b> %	62.1 %	<b>30.5</b> %	28.0 %

## 【分析】

### (1) 探究活動

- 週1回の授業を通じて、1年生はグループで、2年生は個人で、テーマを主体的に設定し、情報の収集や整理・分析をまとめていくといった能力の育成を目的としている。
- 昨年度からの取組であるが、課題と感じていることは「授業案やカリキュラムの設計」「校内で探究学習への理解が広がらない」「調べ学習で終わってしまう」があげられる。また、「外部との連携・協働に関する課題」もあげられ、学校全体で取り組む体制づくりが急務である。

### (2) 読書の習慣

- 生徒回答（1年49.8%、2年23.8%、3年43.3%）と学年で読書の習慣の差異がある。
- 現在の本校の読書指導として、「朝読書の時間（5分間）」ならびにビブリオバトル大会があるが、読書の習慣にどのような効果があるのかを検証する必要がある。  
それを踏まえ、学校としてどう読書指導のありかたを進めていくか、議論する必要がある。

(3) 学校の施設設備

- トイレの改修など年々進めている。
- 令和7年度以降、段階的に学校の整備が進められる予定である。

Ⅲ. 昨年比較で肯定率が5%程度、上回っているもの (昨年・今年度比較)

質問項目	生徒		保護者		教職員	
	R 5	R 4	R 5	R 4	R 5	R 4
【保護者】学校は健康・保健に関する情報をよく提供している。	—	—	<b>89.0</b> %	77.5 %	—	—
【保護者】【教員】学校は、お子さんが卒業生や社会で活躍する方からの話を聞く機会を提供している。	<b>67.3</b> %	85.3 %	<b>82.9</b> %	76.1 %	<b>93.2</b> %	86.0 %
【生徒】授業の理解度に応じて、生徒が参加できる補習や講習を行っている。	<b>93.5</b> %	87.5 %	—	—	—	—
【生徒】学校は命の大切さや社会のルールを学ぶ機会を提供している。	<b>87.4</b> %	82.2 %	—	—	—	—
【生徒】教員による ICT 機器(パソコン・タブレット・電子黒板など)の使用は、授業内容を理解する上で効果的である。	<b>90.6</b> %	74.0 %	—	—	—	—
【教員】ICT 機器(パソコン・タブレット・電子黒板など)を教科の学習指導や進路学習などに活用している。	—	—	—	—	<b>96.6</b> %	84.0 %
【生徒】学校生活の困りごとや相談に親身になって対応してくれる教員がいる。	<b>80.9</b> %	67.5 %	—	—	—	—
【教員】教育相談体制やいじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。	—	—	—	—	<b>98.3</b> %	84.0 %
【教員】学校運営に教職員の意見が反映されている。	—	—	—	—	<b>84.7</b> %	80.0 %
【教員】学校の教育活動において、教職員が日常的に話し合っている。	—	—	—	—	<b>76.3</b> %	66.0 %

## 【分析】

### (1) 健康・保健

- 「さくら連絡網」等を活用し、保健通信を発行し、また、校内掲示を行うなど、きめ細やかな取組みが支持されている。

### (2) 進路指導関係

- ロングホームルームの時間を活用し、いろいろなジャンルの外部講師を招く取組みを行っている。
- 生徒は R4 比で 18%低下している。理由として、生徒の質問文「卒業生や社会で活躍する方の話を聞く機会が多く、刺激を受ける。」とあり、内容への満足度や理解度が低下したことが考えられる。

### (3) 補習・講習

- 本校の授業や講習の目標は、進路実績の通りの国公立大学や関西有名私立大学を意識したのになっており、生徒や保護者のニーズに合致していることが評価された。

### (4) 命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会

- ロングホームルームの時間を活用し、いろいろなジャンルの外部講師を招く取組みを継続的に行っている。

### (5) I C Tを活用した授業

- 今年度から I C T（情報通信技術）部を組織として立ち上げ、学校全体で取組む体制を構築した。
- プロジェクトの導入に加え、I C T部主導で 10 分職員研修を実施し、教員の技術力向上につながった。

### (6) 教育相談にかかる事項

- 今年度から教育相談体制を強化し、S C・S S W・行政等の外部機関との連携を深め、早期対応が可能になった。
- 教育相談室の部屋を新しく設置した。

### (7) 教員の意見が反映

- 校長から「首席連絡会」や「学年主任会議」の内容を掲示板に掲載することで、現在学校が何に取組んでいるのかの見える化につながっている。
- スクールミッション策定・制服に関する項目等のグループワークを通じて、意見交流の場が増えたことも考えられる。

以上